

ビヨンドトゥモロー エンデバー2020 参加者一覧



市川理子 長野県東御清翔高等学校

自分の苦しい状況を人に話すことができなかったというつらい記憶を経て、里親家庭に暮らす今、自分と同じやもっとつらい経験をしている人たちの話をきき、自分も伝えたいことを伝えられる人になりたいと思うようになった。そうすることで、今後、つらい境遇にある人が話しやすい環境をどのようにつくることができるかを考えられるようになってきている。将来は、福祉の資格を取得し、社会福祉施設で働きたい。特技はけん玉で、難しい技ができるようになることに達成感を感じる。



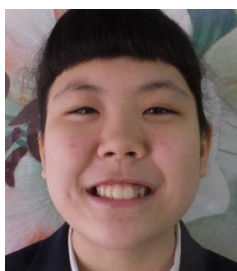
菊地翔 茨城県立取手第一高等学校

衣食住にも困った生育環境から、児童養護施設に入所し多くの人に支えられて生きてきたので、将来は、自分が人を支えられるようになりたいと思っている。家族が困っている時に手を差しのべられる人間になれるよう、大学に進学して、経済について学び、自分の可能性を広げたいと思う。バスケットボールに所属し、日々の練習に取り組んでいる。エンデバーに参加したら、日本全国から集う仲間と共に、それぞれの境遇について語り合い、共感できる存在になりたい。



慶納美優 沖縄県立八重山高等学校

今までつらい体験をしてきた経験を踏まえて、将来は社会福祉士となり、自分を支えてくれた児童養護施設の職員の方々のように、子どもを支える仕事に就くことが夢。エンデバーに参加することで、傷ついたり落ちこんでいたり、様々な状況にある人と話す機会を得て、社会福祉士となる上での糧にしたいと考えている。エンデバーに参加することで、人生初となる東京訪問を果たし、異なる地域出身の仲間たちと出会い、話し、違う価値観や考え方を知りたいと思う。



須藤天音 埼玉県立春日部女子高等学校

親と離れ、児童養護施設で暮らす中で、誰にも言えない気持ちを、同じ世代で同じような境遇の人に話したいと願い、エンデバーに応募した。将来は、教員となることに興味があるが、エンデバーに参加することで視野を広げ、様々な職業選択の中から自分の道を考えていきたい。自分の日常を離れ、様々な人に出会うことで経験を積み、小さくてもうちこめるものを見つけ、自発的に行動できる自分になりたいと思う。



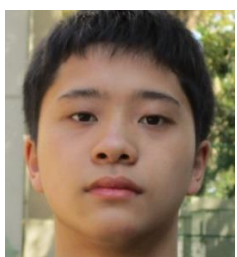
高野綾 広島県立広高等学校

幼少期から児童養護施設に暮らす中で、つらいことがある時には、本や歌など、言葉のもつ力に支えられてきた。だから将来、言葉に関わる仕事に就き、言葉の力を多くの人に知ってもらいたいことを願っている。そのために、自分の視野を広げ、言葉について学びたいと考え、文学部への進学を希望している。ビヨンドトゥモローに参加することで、自分の視野を広げ、やりたいことを新たに見つけ、挑戦していくことを楽しみにしている。



橋本香奈 愛媛県立今治北高等学校大三島分校

幼い頃から児童養護施設、ファミリーホーム、里親家庭などを転々とする中で、孤独を感じることはあったが、その経験を経て、傷ついた人のことを理解できるようになったと思う。将来はメディアの仕事に就き、番組制作に携わり、困っている子どもたちを笑顔にできる仕事に就くことが夢。エンデバーに参加し、県外に行き、家族と暮らすことのできない仲間に出会い、交流することで、少し大人な考え方ができるようになるのではないかと考えている。



長谷健太郎 横浜創学館高等学校

母を亡くし、児童養護施設に入所したことは悲しい経験だったが、それによって強くなり、成長することができたと思う。好きな英語を通して海外の文化を知りたいと考え、高校卒業後は大学に進学し、社会学や国際政治を学ぶことを希望している。そして海外留学を経験し、グローバルな仕事に就きたいと思う。エンデバーに参加することで、自分のまだ知らない可能性に気づき、自分の夢が少しでも明確になることを願っている。



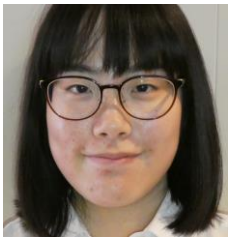
原野涼子 小松島高等学校

父の死、母の病気を経験し、里親家庭に暮らす中で、病院食を考える管理栄養士という職業に関心をもった。自分の狭い環境の中で、どんな職業があるかの知識も限られているため、エンデバーに参加することで、幅広い選択肢を知り、自分の将来を考えていきたい。そして色々な人とコミュニケーションを図り、自分の視野を広げていきたいと考えている。学校では、国際交流や地域貢献のボランティア活動にも積極的に取り組んでいる。



松川綾花 市立函館高等学校

虐待を学校の先生に話すことがこれまでで最も苦しい経験だったが、それが自分の未来を変えることに繋がった。里親家庭での暮らしの中で人々の優しさに触れ、好きな音楽に取り組み、積極的になれたと感じている。高校生活ではバンド活動や行燈行列などの活動に取り組み、充実した日々を送っているが、視野が狭く、自分が知っている職業の中でしか夢を持っていないと感じるため、エンデバーに参加して色々なことを知り、自分のやりたいことをみつけないと思う。



村上裕奈 千葉県立一宮商業高等学校

家庭で暮らしていた時は、つらいことの連続だったが、それを不幸ととらえるのではなく、そこから「自分にしかできないこと」をできる自分になりたいと考えるようになった。施設に入所して初めて、進学について考える余裕ができ、今は、大学に進学して情報処理やウェブデザインについて学ぶという夢を持つようになった。エンデバーに参加することで、人と関わる機会を増やし、誰とでも楽しく話せるようになりたいと思っている。



山崎ありさ 鎮西学院高等学校

児童養護施設に入所したり移動したりすることで、人と別れ、新たな地に行くことに孤独を感じた時期もあったが、施設の職員の方々や、共に暮らす子どもたちに支えられ、温かい家族のような存在を感じることができるようになった。将来は、大学で外国語を学び、海外留学などにも挑戦し、自分の価値観や視野を広げ、将来的には語学を活かした仕事に就くことが夢。学校では ESS 部に所属し、国際交流フェスタでのボランティアに参加して異文化理解を深めたりしている。